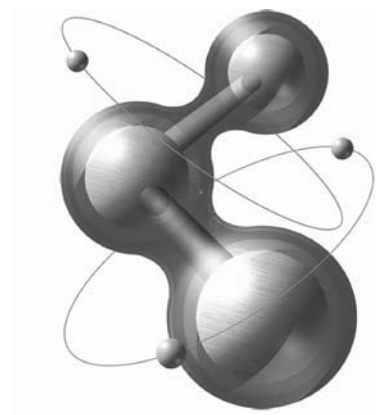


大学生向け企業見学会

日本力発見ツアー in 会津若松



モノづくり推進会議
モノづくりへの挑戦



金型製作の現場を見学（北日本金型工業）

モノづくり推進会議と福島県会津若松市は8月29、30日の両日、大学生向け企業見学会「日本力発見ツアー in 会津若松」を開いた。山形大学工学部の学生8人が参加し、1泊2日の日程で会津若松地域の企業4社（玉川エ

ンジニアリング、北日本金型工業、ルービィ工業、アルテマイスター）を訪問。次代を担う若年層にモノづくりと地域の魅力を伝えるのが狙いで、いずれの企業も経営幹部がモノづくりにかける思いを学生に熱く語った。

「できません」
通用しない



ツアー初日に訪問した玉川エンジニアリングでは遠藤幸政社長と前社長の松島武司相談役が学生たちを出迎えた。同社は産業機械の設計製作や建築土木事業を展開するエンジニアリング企業で、三菱伸銅グループとしてその設備保全なども手がける。同社の社員は建築や電気工事などの専門資格を一人10件近く保有しており、遠藤社長と松島相談役は「あらゆる条件に応える技術集団を目指している」と強調。学生たちを引率しモノづくりの現場を紹介しながら事業概要などを説明した。

チタンなど金属の丸棒をパウダー粒に加工する装置、卓上型誘導加熱装置、無人で放射線を測定するシステム、河川の水門を遠隔制御する装置など学生たちは同社の開発製品を見学し、遠藤社長や松島相談役、また現場の担当者にさまざまな質問を投げかけた。

発想の 転換が必要

「日本でモノづくりを続けていくには発想の転換が必要だ」。北日本金型工業の小林庄二社長は金型事業や業界の現状を紹介しながらそう語った。同社は3次元CADを駆使した設計力を武器に、金型製作から携帯電話など向けのプラスチック成形品の製造、組み立てまでを一貫して手がけている。学生たちはプレス機や射出成形機が並ぶ製造現場を見学。同社が現在取り組んでいる「3次元データを活用した金型加工の無人化構想」の詳細に熱心に聞き入っていた。



守る伝統 壊す伝統

最後の訪問先となったアルテマイスターは国内有数の仏壇・仏具メーカーで、学生たちは木材の仕入れ現場から加工・製造工場をまわり、仏壇・仏具の一連の製造工程を見学。仕入れ現場では担当者から「原木の買い付け段階からモノづくりは始まっている」と学生たちに語り、東北6県からの丸太の購入方法、規制によって丸太の製材方法を担当者が説明（アルテマイスター）。

ルービィ工業でも阿部進社長が学生を工場に案内し、ベアリング事業の戦略や経営方針、理念を語った。主力の「オイルレスベアリング」は自己潤滑性を持つ軸受で、給油量・給油回数削減できるのが特徴。機器の省力化・省エネルギーに貢献できる部品として自動車、建設機械、橋や

先輩から アドバイス



大学の先輩とディスカッション（ルービィ工業）

誘導加熱装置の実演に見入る学生たち（玉川エンジニアリング）

「金型は大量生産のための重要な部品であるが、その金型自体は量産品ではない。一品モノの金型製作を自動化するにはデータやシステム、ITの分野で新しい人材が必要だ」と若い世代への期待を語った。

地域の魅力、生産現場の情熱を体感

「大人の青春」
体験したい

見学を終えて
ある会社で「もっと遊びたい。勉強も大切だが人付き合いの経験がたくさんしたい方が社会に出て役立つ」と言われました。大学生のうちに良い意味の遊びをしたいと思います。（システム創成工学科2年 五十嵐司）

「ないモノを考える」。これがツアーを通して最も印象に残った言葉です。失敗を恐れないことに挑戦する姿勢は、今後の産業の発展に欠かせない考えだと思えました。（システム創成工学科2年 小山雄太郎）

訪問した企業の社長は共通して、他社が採算性を考慮し敬遠するところまでうまく利益を出し、ウイン・ウインの結果を求めている、その考え方に感銘しました。

（機械システム工学科2年 稲垣和崇）
このツアーでは、これから社会に出る上で「考え抜く力」「コミュニケーション能力」、そして「泣くほど下積みをする」という3点が重要だということを知ることができました。（システム創成工学科2年 相倉大輔）
どの社長の話でも共通してその根底に流れていたのは、モノづくりへの情熱と好きという気持ちでした。

心が燃えるような大人の青春を体験したい私は思いました。（システム創成工学科1年 牧野和樹）
「人とは社会に対して価値を創造するものだ。自分がやりたいことであれば、そのことに対して力を発揮し、価値創造ができる」と思いました。（ものづくり技術経営専攻 1年 莫琳琳）
私がこのツアーで一番感銘を受けたのは、玉川エンジニアリングでの「青春」という言葉です。何歳になっても挑戦し続ける気持ち、忘れてはいけないと実感しました。（情報科学科2年 近野楊介）

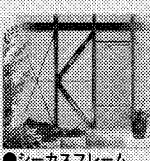
なじめない地域の企業をまわるといって興味を失った。参加したばかりの社長の話や考え方はこれからの自分にとってとても重要になると思えました。（システム創成工学科2年 小島聖矢）



愛は、心配する。 そして、優しく、強くなる。

愛したいせつに思うほど、心配もまた尽きないでしょう。ひとりでは生きていた頃には比べれば、未来について考えることも多くなる。家族を思うその気持ちを、優しくと強さを、あなたは「家」にも望むはず。安全と安心、健康な暮らしを、いちばん厳しい基準で考えたら、何をすべきか。積水ハウスはそこに、未来志向の、「新しい日本の家」の姿を求めました。それは、消費エネルギーの抑制、地震への備え、そして空気環境にも配慮したこれからの家づくり。50周年の感謝を込めた最新モデルで提案いたします。

家族の未来をまもる家。積水ハウスから。



積水ハウスは、独自に開発した「制震構造」を採用。地震動エネルギー吸収システム「シーカス<SHEQAS>」です。それは、地震の振動エネルギーを熱エネルギーに変えて吸収する「地震にプレキをかける家」。建物の変形を約1/2に低減し、住まいへの被害を抑えます。（※当社数値制震構造比。発生する地震により低減効果異なる場合があります。）

SHEQAS 大臣認定 制震構造「シーカス」

断熱、制震、そして空気環境。
【ビー・サイエ エアキス】誕生。BeSai+e Airkis



積水ハウス株式会社

〒531-0076 大阪府北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル www.sekisuihouse.co.jp

ECO FIRST 積水ハウスは環境省認定「エコ・ファースト企業」として「チャレンジ25」に取り組んでいます

チャレンジ25

Green First 積水ハウスは、グリーンファースト

快適性 経済性 環境配慮